

集中的支援 実践報告

社会福祉法人三重県厚生事業団
三重県いなば園 もみのき寮
サービス管理責任者兼副寮長 森本裕亮

支援実施一覧

第1回	令和6年10月21日	第10回	令和7年1月14日
第2回	令和6年11月1日	第11回	令和7年1月28日
第3回	令和6年11月14日	第12回	令和7年2月12日
第4回	令和6年11月19日	第13回	令和7年2月21日
第5回	令和6年11月25日	第14回	令和7年2月27日
第6回	令和6年12月2日	第15回	令和7年3月7日
第7回	令和6年12月6日	第16回	令和7年3月21日
第8回	令和6年12月17日	第17回	令和7年3月26日
第9回	令和6年12月20日	第18回	令和7年4月11日
中止	令和7年1月8日	第19回	令和7年4月17日

事例対象者について

19歳(支援開始時)の男性利用者

診断名:広汎性発達障害、最重度知的障害を合併

療育手帳等級:A1

障害支援区分:区分6

行動関連項目:18点以上

*14歳のときに三重県いなば園くすのき寮(福祉型障害児入所施設)に措置入所



*18歳で特別支援学校高等部を卒業後、同園もみのき寮(障害者支援施設)に入所

第1回はWG会議内にて、事例対象者についての情報共有と寮内の見学を行った。

寮内の写真

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

成育歴について

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

日常の様子

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

職員へのアンケート実施

もみのき寮職員への事例対象者に関するアンケート結果を共有し、減少させたい(ターゲット)行動を検討。

- *特定の職員や利用者に対する他害
- *食器をひっくり返す行動
- *「イヤ」と支援拒否する言動



暫定的にターゲット行動に設定して、頻度や強度について記録を取ることに。

また、広域的支援人材の北氏より

- *寮内で楽しいと思える活動が少なく、人と関わるしかないのではないか
- *生活の手掛かりになる指標がほとんどなく、人の動きを頼りに生活しているのではないか



本人の生活を豊かにし、人を頼りにしなくても行動出来るように支援していく。

寮内の写真

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

寮内や対象者の観察

北氏にもみのき寮内に入って頂き、実際に本人の日常生活の様子を観察してもらう。

→ 時折ニコニコしたりと表情は穏やかで、ゲスト効果もあってか課題となる行動（暫定的なターゲット行動）はみられなかった。
後日、寮内での対象者の様子を映像で確認してもらった。

また北氏より、もみのき寮内の会議に参加し、寮職員に支援導入の理由や根拠を説明し、合意形成を行ってから支援を導入したいとの意向あり。

→ 職員会議に参加してもらい、寮職員からも冰山モデルシート作成の過程で意見を出してもらいながら支援を進めていくこととなった。

シートの活用とターゲット行動の修正

寮内で記録したABCシートやスキッタープロットを共有。

ここ数日、行動が変化しており、その様子も映像で確認してもらう。



職員への他害行為、食器を引っくり返す行為はほとんど見られなくなった。
デイルームや廊下に置いてある長椅子を動かす行為や、他利用者の部屋に入って物を持って行く行為が増えている。

ターゲットとする課題行動を以下の3つにする。

- *「食後、口腔内に残った残渣物を吐き出す行為」
- *「長椅子を動かす行為」
- *「他人の部屋に入り、物を持って行く行為」

シートの活用とターゲット行動の修正

ABCシート

スキャッタープロット

中核的人材養成研修 ワークシート

【ABC記憶シート】

集中の支援事業の一環で、対象者である丸木さんの「イヤ」という言葉に対してアセスメントを取ることとなりました。毎日**D勤販局**が、その日に支援した際に「イヤ」という言葉が出た前後の記録を取って下さい。

記録日: R6年11月20日 ~ 12月15日

ヒント	意識のきっかけ、周囲の状況、行動直前の対象者の状態など 対象者の行動を具体的に書く。「パニック」「挑発」などは具体的な行動ではないのでNG 行動に対して周囲はどのように対応したか、またその周囲の反応に対して、対象者の行動はどう変化したか。
-----	--

日	時間	事象の状況	対象者の行動	事象の状況
(記入日) 11月15日	8:00	本人が食堂に入寮してきたため、職員が面を持って近寄っていく。	「イヤ、イヤ」と機嫌よく言葉を返す。	しかしそのまゝ音程に音響すると、部屋もなく口を開けて廊下に向はる。
(記入日) 11月15日	8:45	他科用着の洋式便器に座っていたが、その便器に置いてあった事務用を「イェーム」に持っていく。職員が「今から使います」と言っていくのに移動させようとする。	本人は死なな様子で「イェーム」と職員に、事務用を移動させないようには断る。	職員が本人の部屋よりライオン館のぬいぐるみを持って来て手渡しする。改めて事務用を移動させようとする。ぬいぐるみ「イヤ」と言うものの今度は断ることもなくなる。事務用を移動させることが出来た。
11月20日 水曜日	10:45 (大東)	男性職員が洗面所で歯磨きが終わった後、洗面所を、アブをトントンと触りながら帰っていく。	トイレの扉を叩くように、奥側に「イヤ、イヤ」と返事をし、そのあとその奥のやな奥側へ行き、奥壁のそばで、引き続きみだらな声で罵り続けた。	11:00、職員がカーテン紐を解き足音で機嫌悪から出る。本人のディンギンと音で気づいてライオンのぬいぐるみを奥壁に手渡ししてトイレに向かうことができた。
11月21日 水曜日	10:30 (永田)	ディールームへ職員と面を連れていく。	他の利用者が面と面した態を疑うと「や」と言う。	その機嫌を振りに行き、目の前で待てるまで察しからした表情をしていた。
11月27日 水曜日	13:30 (大東)	ディールームのベンチに横たっていた。	職員が「イヤ」というものの声で泣いて反発が「イヤ」と言うこともばんやりと手を振るのみ。一歩、拒否する様子。	トイレに行くことはせず、そのまゝベンチに横たわった。
11月22日 金曜日	11:50 (清水)	床に倒れ、機嫌を下駄すけに足を触れ続けた。	男性職員の手を握いたディールームの言葉で「イヤ、イヤ」と言い、動くこともなかった。	その後、後者の言葉からは拒絶するとならな言葉に。
11月24日 日曜日	8:40 (東野)	他科用着(中田さん)のハンカチをもち去っていく。	職員に話しかけようと言っても「イヤ、イヤ」と言って決して聞かなかった。	その後もハンカチを握りつづけていた。
11月26日 火曜日	10:50 (野田)	廊下とみだらな声で罵っている。	職員(モウツリ)が廊下を歩くと「イヤ」と返事をし、	廊下へ行き、他科用着を奥壁に押掛けているの模範だった。
11月26日 火曜日	11:30 (森本)	部屋を持っている。他科用着の奥壁前に置いてあった上置きをディールームに持ってくる。	職員が「イヤ」といふように言うところから「イヤ」と言うところまで。職員が上置きを拾おうとすると本人が「イヤ」と言って職員を制止しようとした。	職員がその場に座ると、言いながら奥壁を見ながらこちらに近づいていく。

中核的人材養成研修用ワークシート

【スキャタープロット】

模倣する行動：「イヤ」と支援拒否する言動

[illegible]

長椅子を動かす行為

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

他人の部屋に入り、物を持って行く行為

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

職員会議への参加

北氏がもみのき寮職員会議に参加。

寮職員に支援導入の理由や根拠の説明を行い、一緒に冰山モデルシートを作成。

→ 会議内で出た意見をもとに、北氏がストラテジーシートを作成。
北氏のストラテジーシートをもとに、サビ管が支援手順書を作成。
年明けから手順書に沿った支援を開始することに。

しかし新年早々、もみのき寮内で感染症が流行したため、手順書による支援開始は1月中頃までずれ込むことに。

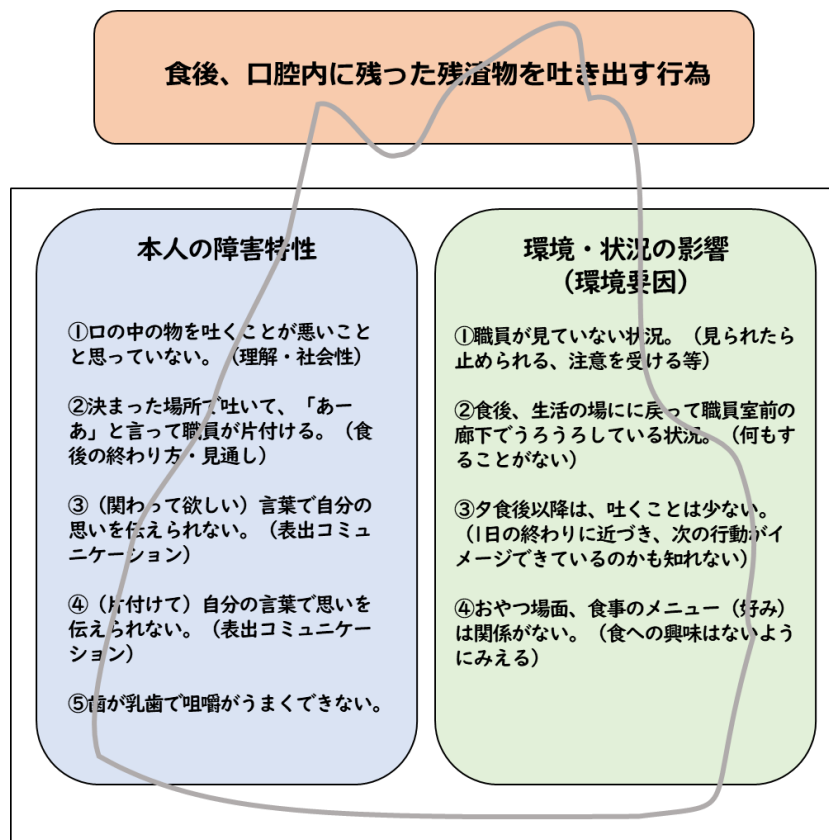
職員会議写真

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

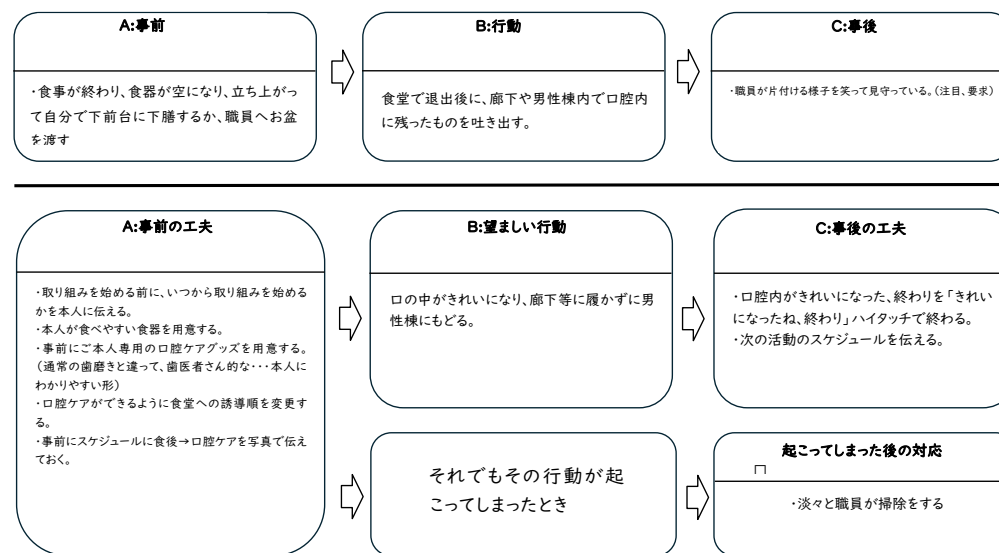
食後、口腔内に残った残渣物を吐き出す行為

冰山モデルシート

ストラテジーシート

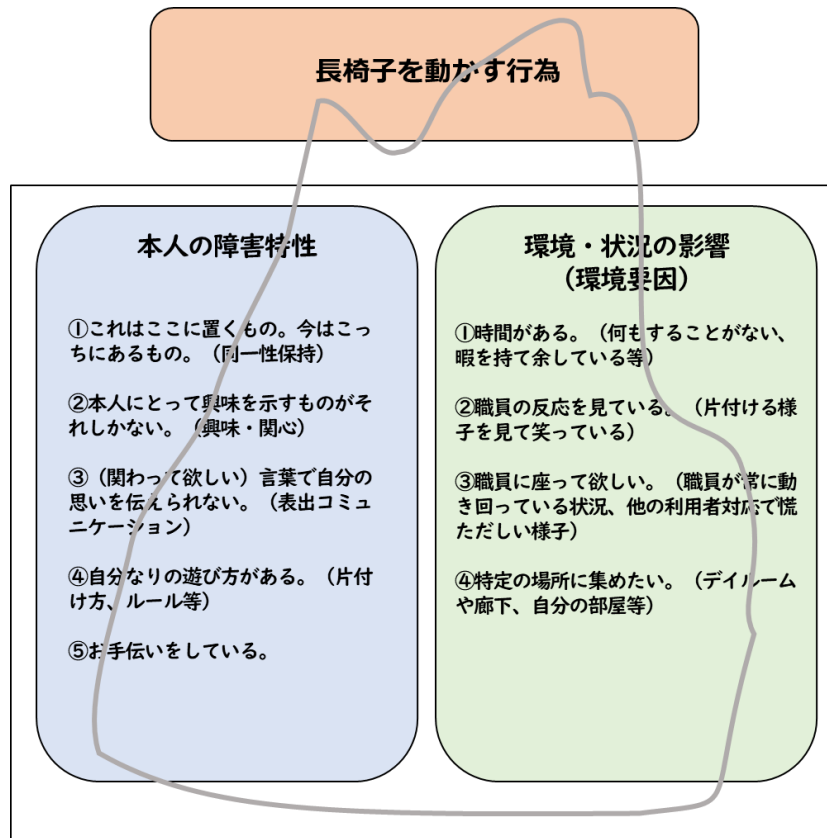


ストラテジーシート



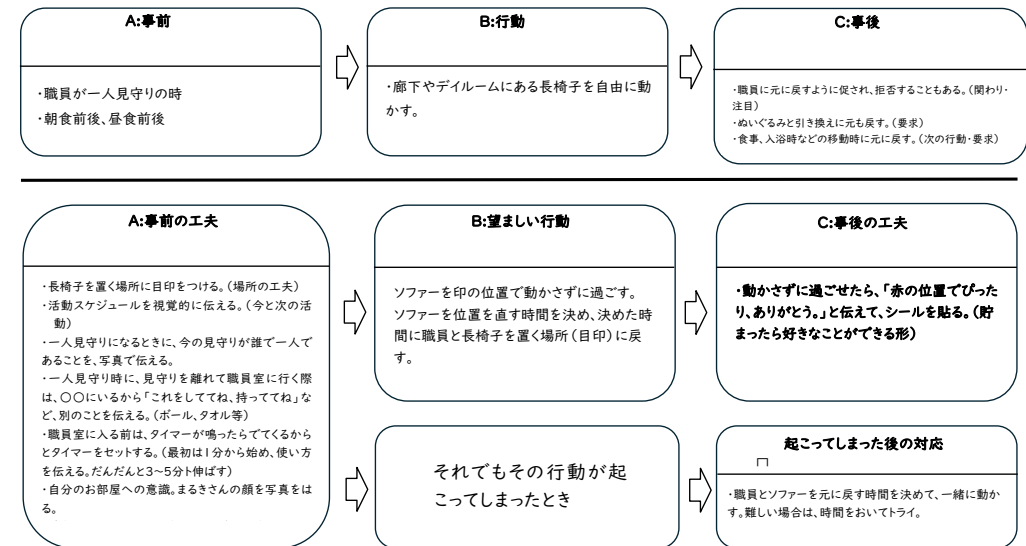
長椅子を動かす行為

氷山モデルシート



ストラテジーシート

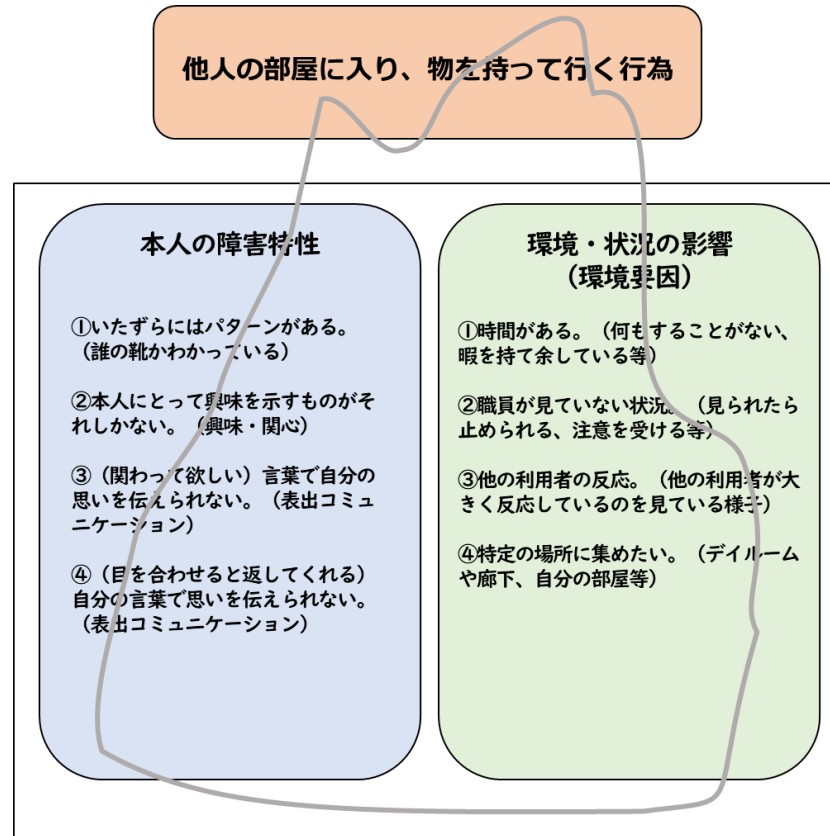
ストラテジーシート



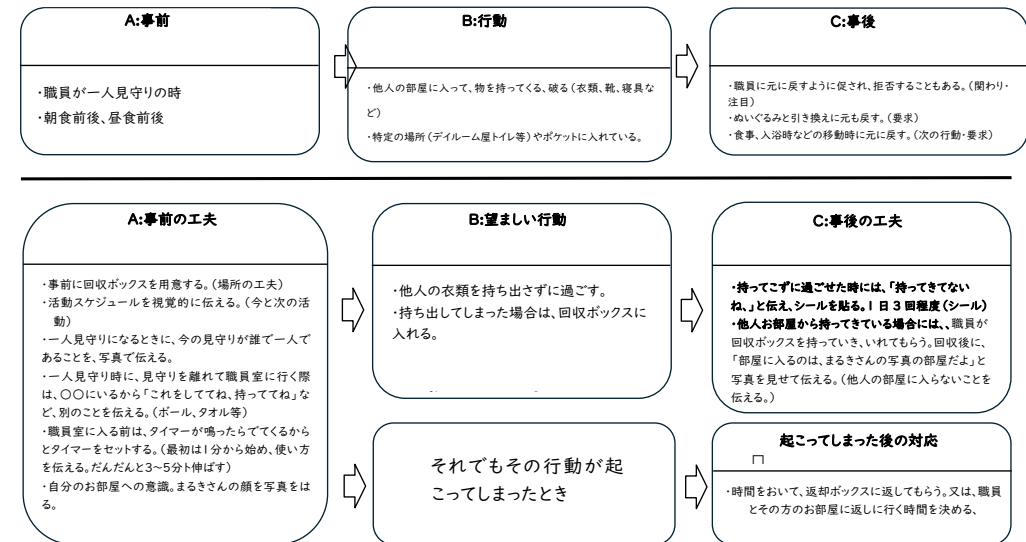
他人の部屋に入り、物を持って行く行為

氷山モデルシート

ストラテジーシート



ストラテジーシート



3ヶ月の振り返り

集中的支援が3ヶ月を経過したため、これまでの経緯や現状をWG会議の参加者で共有。対象者のアセスメントや冰山モデルシート・ストラテジーシートの作成、手順書の作成等、実際に支援を開始するまでに3ヶ月ほど要する。

- 国が想定する3ヶ月というのは難しく、支援を開始してPDCAサイクルでブラッシュアップしていくには、やはり6ヶ月は必要ではないか。
- 支援をする上でチーム内で合意形成を図る必要があるが、支援の意味や手順書の理解について職員により差が生じているのが現状。

手順書による支援開始

食後、口腔内に残った残渣物を吐き出す行為について、手順書による支援を開始。



職員により支援方法が異なる部分もあるが、予想していたよりもスムーズに支援が浸透した。
支援により対象者の行動変容も見られたが、しばらくはアセスメントのため手順書通りに支援を継続。

支援手順書				
利用者氏名：丸木 健		活動：食後に口腔ケアを行う		作成者：森本陽菜 作成日：令和6年12月27日
時間(目安)	スケジュール内容	本人の動き	支援者の手順	支援の結果・評価
事前準備			食堂の席に、スポンジブラシと専用コップを用意する。	
朝食 8:00頃 昼食 12:00頃 夕食 18:00頃	食堂にてご飯を食べる。	食堂へ移動し、ご飯を食べる。	本人を食堂の席に誘導し、座席して食事を摂ってもらう。	
食事終了後	洗面台へ移動する。	スポンジブラシと専用コップを自分で持って洗面台へ移動する。	食事が終わった際、食事用のコップにお水を入れて一併飲んでもらう。その後、本人の席に貼ってある口腔ケアカードを渡し、本人にスポンジブラシと専用コップを持って席を立つてもらい、お水や食器はそのまま置いておく。	
洗面台移動後	洗面台にて口腔ケアを行う。	職員に持ってきたスポンジブラシを渡し、口腔ケアをしてもらう。	本人から手渡されたスポンジブラシに水をつけ、スポンジ部分を柔らかくした上で口内を掃除する。耳上側にポケットがあり、残渣物が溜まりやすいので、重点的にケアする。	
ブラシケア後	うがいをする。	専用コップでうがいをし、口腔内の残渣物を洗面台に吐き出す。	専用コップに水を入れてうがいをしてもらう。うがいは洗面台に吐き出す場合とそのまま飲み込んでしまう場合が考えられるが、どちらでも構わない。	
うがい後	口腔ケア終了の合図	職員とハイタッチして、職員と一緒に更衣室へ戻る。	口腔ケアが終わったら、「きれいになったね、終わリ」と声掛けとハイタッチで本人の取り組みを評価する。その後、本人と一緒に更衣室へ移動し、足すり職員へ対応を引き継ぐ。	
【特記事項】 ※不適切な行動が出たとき ・残渣物を床下に吐き出す。 ・うがいを床に吐き出す。 ・コップの水を床にひっくり返す。 他 →職員は床と掃除の対応をし、本人を更衣室へと誘導する。				
次回の振り返り：(1か月後)				

手順書による支援開始

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

支援の課題と修正

食後の口腔ケアは対象者、職員ともに共通認識になりつつある。
しかし支援に至るまでの段階(下膳方法や誘導方法)にバラつき
があるという課題も。

北氏に、実際に手順書による支援の現場を見てもらい、
アドバイスを頂く。

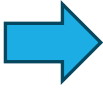
- 洗面台の立つ位置に足跡のマークを描く。
- 手順書の流れを撮影して、全職員が映像で確認できるようにする。

手順書の流れを撮影

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

手順書による支援開始

「長椅子を動かす行為」、「他人の部屋に入り、物を持って行く行為」について、当初は「一人見守り時の対応」として手順書を作成する予定だったが、時間が不規則で状態が抽象的だったため、手順書作成が難航。

 会議内で再検討し、「スケジュールを提示した支援」として、手順書を作成して支援することに。

手順書

(スケジュールを提示した支援)

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

手順書による支援開始

「長椅子を動かす行為」、「他人の部屋に入り、物を持って行く行為」について、当初は「一人見守り時の対応」として手順書を作成する予定だったが、時間が不規則で状態が抽象的だったため、手順書作成が難航。

 会議内で再検討し、「スケジュールを提示した支援」として、手順書を作成して支援することに。

手順書による支援を開始したが、いきなり課題が。

- 職員の顔写真に注目し、スケジュールに意識が向かない。
- カードが小さく、マグネットが取れない。

 マグネットはマジックテープに変更し、職員の顔写真は小さく、スケジュールカードを大きくして再度取り組むことに。

スケジュールボードの変更

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

支援の課題と修正

前回の課題を修正して対応したが、本人のスケジュールに対する意識が定着しておらず、再アセスメントが必要。

- イラストより写真の方が反応が良い。
- 写真も、イメージ写真より人物(特に本人や支援者)が映った写真の方が良い。

その結果、リングカードを作成し、支援の場面で職員が写真カードを見せてから支援を行う方法を開始。

- 写真カードの意味理解や、支援の場面や移動の場面での結びつきを期待。
- 対象者にスケジュールの意識が定着した頃に、スケジュールボードを再度使用していく。

支援の課題と修正



写真カードは、対象者も指差しするなど反応は上々。
まだ全ての場面で行動と結びつくわけではないが、今後も様々な場面の写真カードを作成して使用していくこととした。

6ヶ月の振り返り

WG会議内にて、集中的支援のこれまでの振り返りを行う。

会議参加者からの意見として、

- 6ヶ月かけてようやく職員内でも、構造化支援の効果を実感し始めているところでの終了はもったいないと感じる。
- 導入初期に集中的支援の説明とASDの特性理解の学習の機会が必要ではないか。
- 支援グッズや手順書の作成、職員への周知、またそれらの修正等が業務負担となる可能性がある。
- 実際に支援にあたっている職員の考え方に変化があったのか気になる。

現在の支援の状況

口腔ケア支援を実施していくことで、残渣物を吐き出す行為は減少していった。

一方で新しい行動として、わずかに口腔内に残った残渣物や食べかすを特定の場所に付ける行為が出てきた。



口腔ケアを継続しながら、新しい行動についてもこの6ヶ月で学んだプロセスを踏まえて支援を検討していく。

リングカードについて、本人にとって理解しやすいカードと理解しにくいカードがあるのか、まだ写真カードと行動の結びつきが十分でない場面がある。

また足の裏を触り始めると、全ての支援に対して拒否を示す場面が増えた。



カードの写真を変えてみる等、本人にとってわかりやすく、見通しが持ちやすいものはないかアセスメントしていく。

職員の反応

- これまでに対象者から他害を受けた経験もあり、口腔ケアの場面で少し不安だったが支援出来ていることで安心している。
- 新たなこだわり(足の裏を触る等)に対しても、カードや視覚支援で見通しを持ってもらえればと思う。
- 見通しが持てないから行動が出来ないといった考えはなかった。
- 職員への他害が少なくなり、落ち着いた印象がある。
- もう少し早く統一した支援が始められていれば、職員に対する反応の違いも少なくなっていたのかもしれない。
- チームの中で、ベテラン(リーダー)の意見がどうしても通りやすいが、また別の視点が入ることはチームとしても良いこと。

支援実施一覧

第1回	令和6年10月21日 WG会議	第10回	令和7年1月14日 WG会議
第2回	令和6年11月1日 会議	第11回	令和7年1月28日 職員会議
第3回	令和6年11月14日 会議	第12回	令和7年2月12日 会議
第4回	令和6年11月19日 現場観察	第13回	令和7年2月21日 職員会議
第5回	令和6年11月25日 現場観察	第14回	令和7年2月27日 会議
第6回	令和6年12月2日 会議	第15回	令和7年3月7日 現場観察
第7回	令和6年12月6日 現場観察	第16回	令和7年3月21日 職員会議
第8回	令和6年12月17日 会議	第17回	令和7年3月26日 会議
第9回	令和6年12月20日 職員会議	第18回	令和7年4月11日 会議
中止	令和7年1月8日	第19回	令和7年4月17日 WG会議

集中的支援を通して

- 通常業務を行いながら集中的支援を進めていくことに、負担とを感じる場面も少なくなかったことは事実。
- 現場からの期待感と、実際の支援や対象者の反応との温度差も感じた。
- 「本人の生活を豊かにする、困り感をなくす」という本題に対して、常にアプローチしていくことが出来なかった。
- 今回の支援を通して自分自身の視野が広がり、他の利用者支援のヒントになっている。
- 構造化することで、対象者自身ももちろんだが、職員もやるべきことが明確になり、支援が統一されるようになった。

集中的支援を通して

個人情報を含むため、当日会場で説明します。

最後までご清聴頂きありがとうございます
ございました。